

(様式4)

令和2年3月13日

富山県教育委員会教育長 殿

富山県立氷見高等学校  
校長 大崎 武治

令和元年度学校総合評価を別紙(様式5)とともに提出します。

## 令和元年度 学校総合評価

### 6 今年度の重点目標に対する総合評価

本校では、(1)知性の向上、(2)品性の向上、(3)信頼される学校づくりの3つの観点から重点目標を設定し、学校経営に係る課題に取り組んだ。

- (1) 知性の向上に関しては、生徒の家庭学習時間調査と指導、及び教員の授業改善の両面から取り組んだ。前者は、学習の基礎・基本の定着及び生徒個々の主体的な学習態度の育成を目指した。後者は、教員の活動として「主体的・対話的で深い学び」の研修と実践を進めた。

この結果、前者では、教科や学科が行う小テストや資格検定指導等が生徒の達成感や自信に繋がるという点では有効ではあるが、断片的な知識の詰め込みでは持続的な効果を生まないという教員側の反省も多い。また、授業アンケートによると、生徒は授業をわかりやすいと感じる一方で、相対的に達成感を得る割合は低い結果であった。短期記憶の詰め込み型学習から思考力を磨く学習意識の改善は、問い続けねばならない課題であると改めて実感した。

後者では、今年度も、「新たな学び創造事業」の拠点校として、「対話的で深い学び」について検討する機会を積極的に実践した。1・2学年のホームルーム活動ではビブリオバトルを実施し、対話に向けた姿勢を養った。また、テーマを意識した研究授業に加えて、講師を招聘し、生徒の数だけ学びがあるという基本理念のもと、生徒が向上を自認できる授業改善に向けた授業研究と実践例への知見を広める校内研修を行った。会を通して、学習内容ごとの段階的な学力観を教員側が共有することに加え、生徒の主体性を喚起するには、生徒が個々の到達内容を顧みる「自己評価」の有用性を意識した授業改善が大切であるという考えを得た。

- (2) 品性の向上に関しては、「安心して過ごせる氷見高校社会」の視点で、生徒と個々の面談及び全校集会等の機会をとらえて本校生徒としての所属意識と矜持を意識化し、社会規範を遵守する心の育成と自律的態度の向上を目指した。また、学校行事や課外活動でも、生徒の主体的な参加を促す運営を行うことで生徒の高い満足度を得たことは、自己有用感を高め、それを与えてくれた本校への所属意識と矜持を高めた結果に繋がった。その結果、ルール、マナーに関する生徒の意識調査は、高いレベルを見とめる結果となった。
- (3) 信頼される学校づくりに関して、家庭や地域とのより良い連携の推進を目指した。家庭については、学校メールへの登録数は増加し連絡体制が良化した反面、専門学科の保護者を主にPTA研修会への参加が低迷しており対策を要する状況が続いている。地域については、「HIMI学」等の学習活動や学科の課題研究やインターンシップ、部活動、ボランティア活動等を通して地域との連携を深めた。重点目標に設定したボランティア活動への参加者数は、生徒会執行部、学科、学年、部活動を中心に年々参加者は増加している。

### 7 次年度へ向けての課題と方策

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、今年度のホームルーム活動での取り組みを広げ、多くの授業で生徒の主体性を導く必要がある。今年度ICT機器の導入が進んだ本校では、従前の校内研修に加えて市内中学校と連携した研修や講師の招聘を通し、ICT機器を活用した授業やアクティブラーニング等に関する研修の機会を拡充することで、授業改善を図っていききたい。また、多くの活動の場面において主体的に生徒に寄与させて、自らの学びの記録の蓄積と他者評価を適宜実施することで、他者との関わりの中で自己理解を促して自己有用感を高めさせる。そのことで、本校生徒の所属意識と矜持を一層高めていきたい。さらに、大切な情報を精選して伝える機会としてPTA研修会の広報に努めるとともに、市内中学校の出身生徒数が多い本校は地域と協働した教育活動を一層推進することで、本校の教育活動への関心を抱いてもらうことが必要であると考えている。

8 学校アクションプラン

| 令和元年度 氷見高等学校アクションプラン - 1 -  |   |            |                     |            |   |          |     |    |
|---|---|------------|---------------------|------------|---|----------|-----|----|
| 重点項目  | 学習活動（向学心や社会的実践力の育成）   |            |                     |            |   |          |     |    |
| 重点課題  | 授業及び家庭学習への生徒の意欲の醸成  |            |                     |            |   |          |     |    |
| 現 状   | 授業がわかり易い  | 1年普        | 2年普                 | 3年普        | 1年専   | 2年専      | 3年専 | 平均 |
|   | 平成29年度（%）   | 76         | 76                  | 80         | 58  | 73       | 78  | 74 |
|   | 平成30年度（%）   | 81         | 74                  | 81         | 68  | 75       | 86  | 78 |
|   | 令和元年度（%）  | 90         | 87                  | 85         | 77  | 64       | 82  | 81 |
|   | アンケート結果で「授業がわかりやすい」（4段階で上2段を回答）と答えた割合は上表の通りであった。授業改善の取り組みの中、数値が一層向上するように努めたい。   |            |                     |            |   |          |     |    |
|   | 学 科   | 普通科        |                     | 専門学科       |   | 平均       |     |    |
|   | 2学期末考査期間学習時間  | 平日2時間以上（%） | 休日3時間以上（%）          | 平日2時間以上（%） | 休日3時間以上（%）  | 平日・休日（%） |     |    |
|   | 平成29年度  | 60         | 55                  | 16         | 19  | 38       |     |    |
|   | 平成30年度  | 73         | 73                  | 40         | 34  | 55       |     |    |
|   | 令和元年度   | 68         | 64                  | 36         | 25  | 48       |     |    |
| また、考査準備・考査期間の家庭学習時間を調査した結果、平日2時間、休日3時間の学習時間を確保できている生徒の割合は、2学期末考査で55%であり十分とは言えない。学習内容に興味関心が高まり、知識定着や問題解決の喜びを感じるための方策を考えたい。<br>専門学科の検定の取得状況は、農業科学科の検定取得平均7.74種目、ビジネス科は全商検定1級合格のべ134名、生活福祉科は、家庭科技術検定合格者のべ54名と前年より良かった。 |   |            |                     |            |   |          |     |    |
| 達成目標  | ① 授業がわかり易いと思う生徒の増加<br>全ての学年・学科ともに80%以上  |            |                     |            | ③ 専門学科検定合格状況の良化<br>(農)卒業時に取得検定平均7種目以上<br>(海)食品技能検定第I類、水産海洋技術検定の合格者80%以上<br>(ビ)卒業時、全商検定1級合格120件以上<br>(生)家庭科技術検定1級合格者50名以上  |          |     |    |
|   | ② 家庭学習時間の確保<br>定期考査期間の学習時間調査で、平日2時間以上、休日3時間以上の生徒数の割合がともに60%以上   |            |                     |            |   |          |     |    |
| 方 策   | <ul style="list-style-type: none"> <li>授業回数や正味時間を確保し、適切な分量の課題や意欲付けを工夫する。</li> <li>学習時間調査と自己評価を実施する。</li> <li>基礎基本を中心に、小刻みに学力を積み上げる取り組みを継続する。</li> </ul>   |            |                     |            | <ul style="list-style-type: none"> <li>授業やホームルーム、総合的な学習（探究）の時間を通して、検定取得に意欲をもたせる。</li> <li>学び合いの機会を適切に計画して、技能を確実に定着させる。</li> </ul>   |          |     |    |
| 達成度   | ① 「授業がわかり易い」 81%  |            |                     |            | ・農業科学科・海洋科学科の検定結果<br>農業科学科8.1種目 海洋科学科 55%   |          |     |    |
|   | ② 学習時間「平日2時間以上」の割合<br>普通科68%、専門学科36%、全校52%<br>学習時間「休日3時間以上」の割合<br>普通科64%、専門学科25%、全校45%  |            |                     |            | ・ビジネス科の検定結果 98名<br>・生活福祉科の検定結果 50名  |          |     |    |
| 具体的な取組状況  | <ul style="list-style-type: none"> <li>授業回数の調整を行うとともに、互研授業期間を設けることで、学力観や指導法について研修の機会を設定した。</li> <li>学習時間を調査して、教員間の情報共有を促すとともに学期ごとにも、学びの姿勢を自己評価させた。</li> <li>基礎基本の定着を目的として、朝学習や小テストを実施した。</li> </ul> |            |                     |            | <ul style="list-style-type: none"> <li>ホームルームやキャリアデザイン等の時間を通して、進路目標を絞っていく過程で、検定を取得する意義について、具体的に理解させた。</li> <li>知識や技能の定着が不十分な生徒には、個別指導や学び合いの機会を持つために、補講を適時設定して実施した。</li> </ul> |          |     |    |
| 評 価   | ① B 昨年比4ポイント向上  |            | ② D 昨年比 平日:横ばい 休日:減 |            | ③ C   |          |     |    |
| 学校関係者の意見  | ① ②学習習慣確立の取り組みに加え、主体的学習態度の育成を図りたい。  |            |                     |            | ③集中的な取り組みの継続によって、伸張する成果であり今後とも継続したい。  |          |     |    |
| 次年度へ向けての課題  | ① ②授業がわかりやすいと答えた割合は、若干だが向上した。授業改善や電子機器の活用等、さらに学びの意欲が高まるような授業を研究開発していきたい。  |            |                     |            | ③検定取得に向けた対策・指導は熱心を実施され現段階で目標達成した学科もある。専門学科生徒に対し、身につけるべき技能だと自覚を促し、生徒の意欲を高めたい。  |          |     |    |

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成しなかった D：達成しなかった）

令和元年度 氷見高等学校アクションプラン - 2 -

|            |   |                                      |
|------------|---|--------------------------------------|
| 重点項目       | 教科実践（教員の活動）   |                                      |
| 重点課題       | 「新しい学び」への準備と実践  |                                      |
| 現 状        | <ul style="list-style-type: none"> <li>平成30年度は全教科部会で、「主体的・対話的で深い学び」の実践を試みた。「主体的な学び」には各教員が知恵を絞り、工夫をしているが、一方、「対話的な学び」には、生徒の日本語4技能の向上が重要であるとの認識を多くの教員が共有した。</li> <li>他校では、タブレット端末の導入が進んでおり、本校への導入時期も間近である。</li> <li>新学習指導要領(令和4年4月施行)の移行期間が平成31年4月から始まり、総合的な探究の時間の運用等カリキュラムマネジメントの必要性が高まっている。</li> <li>「平成33年度大学入学者選抜要項の見直しに係る予告について」(平成29年7月)の中では、調査書の具体的な変更内容が予告されており、対応ができるよう準備が必要である。</li> </ul>   |                                      |
| 達成目標       | <ol style="list-style-type: none"> <li>① 年度末までに、すべての教員が「主体的・対話的で深い学び」実現の授業改善に取り組み、新たな知見を入手する。日本語4技能向上に向け、読書指導を実践する。</li> <li>② ICT活用への準備(タブレット端末を使う授業研究等)ができる。</li> <li>③ 新学習指導要領の教科・科目の内容変更への準備が進む。</li> <li>④ 英語4技能の育成と資格取得への基盤整備が進む。</li> <li>⑤ 令和3年度大学入学者選抜の新たなルールへの対応準備が進む。</li> </ol> <p>* 目標の達成度は、教員へのアンケート・意見集約等により評価する。</p>  |                                      |
| 方 策        | <ul style="list-style-type: none"> <li>校内の互研授業において、学習内容と工夫している点などを事前に公開し、他教科の授業実践から学ぶことを目標に、授業の参観を積極的に推進する。</li> <li>読書を通じた日本語4技能の育成のために全生徒が参加するビブリオバトル等を実施する。また、「対話的で深い学び」の指導方法について、「新たな学び創造事業」拠点校と情報交換し授業改善の研究を進める。</li> <li>ICT活用は、Japan e-portfolioを1・2学年に導入する。また、タブレット端末の利用について先行事例を集め、導入後の有効利用の手立てとする。</li> <li>新学習指導要領は、教科ごとの変更を掴み、教員全体で共有する機会を設ける。</li> <li>英語4技能の重要性を、生徒・保護者・教員で共有し、大学進学希望者に資格取得の機会を確保する。入試制度の情報を収集し、教員の情報共有を図る。</li> <li>1・2学年は、PTA研修会(10月)で、保護者に大学入学者選抜に関する情報を最新の情報や準備状況を伝える。</li> </ul> |                                      |
| 達成度        | ①授業改善の取り組み(生徒同士の表現活動等を取り入れた授業実施 83.9%)  | ②ICT活用準備(タブレット端末利用の授業を考えている教員 64.2%) |
|            | ③新学習指導要領対応(研修参加など含む自己研鑽実施率 94.6%)   | ④⑤ 昨年11月以降、大学入試情報には不確定要素が増加している。     |
| 具体的な取組状況   | ①互研授業等での研究授業の実施。日本語力向上のためのビブリオバトル実施。  | ②2月以降41台のタブレット端末の使用が可能になる。           |
|            | ③遠藤貴広氏(福井大学)を講師に、授業改善と評価の研修会を開催した。  | ④⑤英語民間テスト導入の準備をしていたが、中止となった。         |
| 評 価        | ① B ほぼ達成した。   | ② C あまり達成できなかった。                     |
|            | ③ B ほぼ達成した。   | ④⑤ C ※情勢が不確定のため                      |
| 学校関係者の意見   | 「主体的で対話的な深い学び」の実践は、市内中学校の公開授業・協議会に高校からの参加によって、個々の学校で探究活動・学び合いが深まると考えられる。ICT機器の使用、データ収集・情報分析の手法を生徒・教員ともにスキルアップするよう努力したい。   |                                      |
| 次年度へ向けての課題 | 「新たな学び創造事業拠点校」は今年度で終了する。次年度は2年生での「総合的な探究の時間」が新学習指導要領の先行実施となる。生徒の主体性と対話力の向上、テーマ追求の方策、等Society 5.0時代を生きる柔軟で確かな学力の形成を目指してプログラムを形成する必要がある。教員だけでなく、地域からの協力体制を活力として、生徒の学びを進めていかなければならない。  |                                      |

( 評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成しなかった D:達成しなかった )

令和元年度 氷見高等学校アクションプラン - 3 -

|            |   |   |
|------------|---|---|
| 重点項目       | 進路支援（進路支援力の向上）  |   |
| 重点課題       | 進路目標の早期設定と進路意識向上への方策の推進   |   |
| 現 状        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の能力、適性を掴みきれておらず、進路決定の方策に対する基礎的、基本的な知識が不足しており、進路意識が高まらない実態が各学年で見受けられる。保護者への進路情報の啓蒙にも力点を置く必要がある。</li> <li>・全学年で、進路意識を高め受験準備に当たらせるために、「進路学習」と「面接」の充実が必要である。</li> <li>・幅広く進路を選択できるよう、学習習慣の確立に向け、各学年、各教科、各部との連携を密にする必要がある。</li> <li>・進路情報の共有を進め、従来の進路指導のノウハウを発展、蓄積できる体制の充実を図る必要がある。</li> </ul>   |   |
| 達成目標       | ① 1、2年進路ホームルーム（年3回）<br>各学年保護者会（進路情報）の充実   | ② 進路関連行事「個人面接」「進路講話」「卒業生に聞く」等の充実  |
|            | ・生徒全体の進路ホームルームへの満足度、および学年保護者会での情報への満足度 80%以上  | ・生徒全体の個人面接の満足度 70%以上  |
|            | ③ 進路希望の実現（第3学年 進学希望者）   | ④ 進路希望の実現（第3学年 就職希望者）   |
|            | ・3年9月進路希望調査（校種）に対し<br>第一志望達成率：普通科 50% 専門学科 75%  | ・就職希望者の就職内定率 100%   |
| 方 策        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年の年間指導計画に基づき、段階的にキャリア学習の機会を設けて進路研究し、自己の適性の理解及び将来設計を具体化させる。</li> <li>・進路統一ホームルームを年3回実施するとともに、指導内容の精選を図ることで、効果的な系統指導プログラムを作成し、学年全体で指導体制の共有化を図り、個人面接に活用できるよう工夫する。</li> <li>・進路に関する行事内容を吟味し、現行の取り組みに改善点を活かすよう行事を企画する。校外から講師を招く際には、生徒の実態やニーズに応じ、事前打合せを十分に行い、内容の充実を図る。</li> <li>・共有すべき進路情報を進路指導部のファイルサーバーにアップし、生徒に還元できるようにする。</li> <li>・各学年と連携し、3年間を見通した進路指導を行う。<br/>1年次…「進路講話」「職業人に学ぶ」「文理選択」「進路ガイダンス」「卒業生と語る会」他<br/>2年次…「大学等見学」「修学旅行」「学部学科の研究」「卒業生と語る会」「インターンシップ」他<br/>3年次…「進路ガイダンス」「オープンキャンパス」「就職説明会」「企業見学」「進学検討会」他</li> <li>・受験情報や指導方法等が共有できるよう、担任が定期的に情報交換する時間設定等に努める。</li> <li>・進路に関する個人記録を蓄積し、自分の進路経歴を理解し、発展させる。</li> </ul> |   |
| 達成度        | ① 進路ホームルームを各学年、年間3回を計画し、実施分は概ね好評を得た。<br>保護者アンケート(12月)「進路指導が適切に行われているか」1年 94% 2年 93% 3年 94%  | ② 進路に対する「個人面接」はよく行われている。<br>生徒アンケート(12月)「進路についての指導・面談がよく行われている」1年80% 2年 76% 3年 81%<br>※3月の「卒業生と語る会」は休校により実施できず。 |
|            | ③ 普通科の第一志望達成率（校種）は90%超<br>専門学科の第一志望達成率（校種）は、ほぼ100%  | ④ 就職希望者43名すべてが内定。   |
| 具体的な取組状況   | ① 進路に関する統一ホームルームを1、2学年で実施し進路意識を高めた。進路と学年で協議し、それぞれの時期に必要な進路プログラムを検討した。   | ② 「個人面接」は各担任で実施、「進路講話」や「進路ガイダンス」は学年、進路指導部で講師や校種の選定などを行い、より効果が上がるよう努めた。  |
|            | ③ 推薦入試では、全教職員の協力を得て小論文・面接等の指導割り当てを行い、成果をあげた。  | ④ 就職希望者に対して、個人々人に対する志望と特性にきめ細かく配慮し、就職希望者全員の志望先の内定を得た。   |
| 評 価        | ① A   | ② 「個人面接」 A  |
|            | ③ A   | ④ A   |
| 学校関係者の意見   | 職業人講話やインターンシップ等、段階性のある進路指導が適切に運用された。特に最終学年である3学年は、進学から就職にいたるまで生徒の進路希望を個々に掌握して、進学指導では高い目的意識に基づいた推薦指導を適切に行い、対昨年比で多くの生徒が上級学校への進学希望を叶え、また、就職指導もほぼ第一希望の企業への採用を果たすことができた。   |   |
| 次年度へ向けての課題 | 本校が長年培ってきた、面接指導や教科指導や小論文指導、また専門学科でのキャリア教育などが成果を挙げる大きな力となっている。本年の進路指導の過程を記録に残し、次年度に活かすとともに、保護者向けの進路ガイダンスを実施し、進路情報の提供と共有を図りたい。大学入試改革に対する、授業改善や個人記録の積み重ねなど、今後取り組むべき、課題はまだ多く、引き続き計画的に準備をしたい。進路行事として計画されていたものについては、模擬試験や検定も含めて、ほぼ計画通りに実施することができている。さらに進路に対するキャリアを深めていくために、ホームルームを有効かつ計画的に活用していきたい。   |   |

( 評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成しなかった D：達成しなかった )

令和元年度 氷見高等学校アクションプラン - 4 -

|            |   |  |   |
|------------|---|--|---|
| 重点項目       | 学校生活（心身ともに健康で充実した高校生活）  |  |   |
| 重点課題       | 「誇りに思える氷見高校社会」「安心して過ごせる氷見高校社会」の構築に向けての社会観の育成  |  |   |
| 現 状        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・さわやかな挨拶を交す学校を目指しているが、挨拶の価値を意識して行う生徒は少ない。また、着こなしや公共交通機関利用時のマナーに関しても、意識の低い生徒が見られる。「氷見高校社会」への誇りのもと、自己有用感を高める必要がある。</li> <li>・人間関係における不安や悩みは、常に注視すべきことである。「安心して過ごせる氷見高校社会」の視点で、向上に邁進する学校生活を送らせる必要がある。</li> <li>・ゴミの分別が徹底しない。また、飲み残したまま容器が捨てられる場合もある。</li> </ul> |  |   |
| 達成目標       | ① 挨拶・服装・交通マナー・乗車マナー等の規範意識の向上、<br>生徒意識調査における挨拶や服装等に係る意識率<br>95%以上  | ② いじめ撲滅等、「安心して過ごせる氷見高校社会」に関する意識の向上<br>「安心して過ごせる氷見高校社会」の創造に対する生徒の意識率 100% | ③ ゴミの分別徹底の意識率の向上<br>生徒意識調査におけるゴミの分別に係る意識率<br>95%以上  |
| 方 策        | <p>① 年2回の「さわやか運動」、毎月実施するクラス毎の「さわやかデイ」の取り組みにおいて、挨拶の意義を事前指導し、挨拶の価値を意識させながら実施する。また、校風・通委員会活動として取り組ませることで、「挨拶の励行」「交通安全（自転車乗車マナー等）」「JR等公共交通機関の乗車および乗降時のマナー」など社会的マナーの向上に努める。</p> <p>② 「安心して過ごせる氷見高校社会」をキーワードとして、生徒集会で「命の尊重」を訴えるとともに、学期を基本にアンケートで、悩みや問題行動を早期に把握し、迅速かつ周到に対応する。</p>                          |  | ③ 年間5回のクリーンアップデイでゴミの分別を重点項目に取り上げ、生徒の意識を喚起する。<br>分別方法をわかりやすく図示したフローチャートを作成し、クラス掲示で知らせる。分別の悪い場所は、ゴミ箱の工夫や担当の先生への説明など個別の対策を立てる。                                   |
| 達成度        | ① 社会規範の重要性を理解している生徒の割合<br>88.9%   | ② 安心して過ごせる氷見高校社会の創造を意識している生徒の割合<br>95.9%                                 | ③ 「校内でゴミを分別している」と回答した生徒の割合<br>91%   |
| 具体的な取組状況   | <p>① 年に2回の高校生さわやか運動を、青少年育成氷見市民議会等の各種団体や氷見署、地元小中学校と連携して行い、挨拶・服装、交通マナー等に対する意識の向上に努めた。また、校内でも月に2回の氷高さわやかデイを実施し、意識の向上を目指した。</p> <p>② いじめや類する行動について生徒を注意深く観察するとともに、定期的に全体指導といじめ等の被害に対するアンケートを実施し、職員間の連携と情報共有をはかりつつ、きめ細かな指導を実施した。</p>   |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健委員による清掃点検で、ゴミの分別について具体的に注意を促した。</li> <li>・分別方法を図示したフローチャートによって共通理解を図った。</li> <li>・ゴミが大量に出る行事では、繰り返し指導した。</li> </ul> |
| 評 価        | ① B<br>校内外での挨拶・服装等の社会規範に対する生徒の意識は概ね良好である。   | ② B<br>いじめやそれに類する行為には、学校全体の協力体制のもと対応できている。                               | ③ B<br>毎日の分別状況は概ね良好である。学校行事でも、協力のもと、良好であった。   |
| 学校関係者の意見   | 多くの生徒が、氷見高校社会の一員であることを自覚し、服装・挨拶ともに良好である。問題発生時の対応は適切だが、SNSに起因する問題への対応が懸案である。   |  | 分別意識が形骸化せず、維持されるようにしたい。   |
| 次年度へ向けての課題 | <p>① 社会規範の遵守に加え、氷見高校生の矜持をもって主体的に行動する心の啓蒙の在り方を検討する。</p> <p>② SNSによるいじめに類する行動について、その危険への理解を深めさせ、予防を図るよう研究する。</p>  |  | ③ ゴミの分別が徹底されていない場所に対して、担当の先生方への説明を根気強く行う必要がある。  |

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成しなかった D:達成しなかった)

令和元年度 氷見高等学校アクションプラン - 5 -

|            |   |   |                     |
|------------|---|---|---------------------|
| 重点項目       | 特別活動  |   |                     |
| 重点課題       | 学校行事・部活動・及び各主体による地域連携活動のさらなる活性化   |   |                     |
| 現 状        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事は、前年度の課題を参考にし、改善案も取り入れて生徒会執行部を中心に企画・運営を行っている。その中で、全校生徒の参加意識や達成感をより高めていくために、生徒の意見を取り入れながら、生徒主体となるよう工夫して取り組んでいる。</li> <li>・部活動は、全校生徒の約90%近くが加入している。部活動の休養日週2日制の導入により、限られた時間の有効活用のために、明確な活動計画と集中した時間活用の工夫が求められる。</li> <li>・ボランティア推進委員会を中心に家庭クラブやJRC部等とも連携し、地域のボランティア活動に積極的に取り組んでいる。校内ではエコキャップやコンタクトレンズの空ケースの回収を行っている。</li> </ul> |   |                     |
| 達成目標       | ① 各学校行事の内容の充実   | ② 部活動に、高い目標と積極性をもって参加する意識の向上                              | ③ ボランティア活動への参加意識の高揚 |
|            | 各行事に対する生徒の満足度 80%以上   | 3学年生徒の満足度 80%以上   | ボランティア活動への参加全生徒1回以上 |
| 方 策        | <ul style="list-style-type: none"> <li>① 各行事の前に各種委員会の開催や生徒会便りの発行を行い、行事についての実施要項等を周知していく。また、行事後にアンケートを行うことで、生徒の達成感が高まるよう改善点を加え、次年度に活かすよう工夫する。</li> <li>② 部活動の開始時刻を守ることの大切さを全校生徒に意識させつつ、休養日の設定とその周知を図ることで、メリハリのある部活動への取り組みを促す。同時に、3年生の引退時に、アンケートで部活動に対する意識調査を行い、各部顧問に知らせ、活動に生かす。</li> <li>③ ボランティア推進委員会を中心にポスターの掲示や放送などを通し、全校生徒にボランティア活動への積極的な参加を呼びかける。</li> </ul>          |   |                     |
| 達 成 度      | ① 各行事に対する満足度<br>体育大会95% 氷高祭96%  | ② ボランティア活動の参加者延べ人数 1308名<br>(内訳 1年507名 2年443名<br>3年358名 ) |                     |
|            | ② 部活動に対する満足度(3年対象) 92%  |   |                     |
| 具体的な取組状況   | 体育大会では、生徒会執行部が主導し、競技ルールの見直しを積極的に行い、公平かつ円滑な運営ができるよう図った。また、氷高祭でも生徒会執行部を中心に全体的な視野で企画・運営を行い、生徒会企画の充実も図った。部活動では、多彩な部活動を運営できるよう顧問の配置、予算運用等適正に対応した。  |   |                     |
| 評 価        | ① A 行事への生徒の満足度は高い。  | ③ B 延べ人数は目標に達したが、活動を振り返る機会を持つことができなかった。                   |                     |
|            | ③ A 引退した生徒の満足度は高い。  |   |                     |
| 学校関係者の意見   | 企画から運営まで生徒の主体性を大切にしたい学校行事と、多彩なニーズを持つ生徒たちを満足させる部活動ともに、多学科・大人数の生徒を一つに繋げる貴重な場面を提供できていた。ボランティアは、清掃活動のみならず、地域に対する貢献のあり方を模索する良い機会としていきたい。また、ボランティア活動の実践は、発表の機会を生徒に与え自分の言葉で語り発信させたい。   |   |                     |
| 次年度へ向けての課題 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各行事の事後アンケートから改善点を見つけ、より多くの生徒が自主的、積極的に学校行事に参加できるよう企画や運営方法を工夫する。</li> <li>・より多くの生徒が部活動に熱心に参加することで、いろいろな経験を積み、充実した学校生活を送れるよう援助する。</li> <li>・ボランティア活動に参加する生徒を増やす。ボランティア後の記録や感想を残すなど振り返りの機会を設け、他の生徒への動機付けとなるよう工夫する。</li> </ul>   |   |                     |

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成しなかった D:達成しなかった)

令和元年度 氷見高等学校アクションプラン - 6 -

| 重点項目       | 情報発信及び家庭との連携  |   |     |       |      |    |       |       |    |       |       |    |       |       |    |       |       |
|------------|---|---|-----|-------|------|----|-------|-------|----|-------|-------|----|-------|-------|----|-------|-------|
| 重点課題       | 適切な情報発信及び保護者との情報共有の推進   |   |     |       |      |    |       |       |    |       |       |    |       |       |    |       |       |
| 現 状        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭との連携を図るために、日頃よりPTA活動への積極的な参加を呼びかけている。PTA総会への参加保護者は、平成28年に、総会後の学年懇談会を実施して以来増えており、一昨年の保護者の参加率は、38%（5年前の2.17倍）となったが、昨年度は38.5%とほぼ横ばいであった。</li> <li>・学校と保護者との情報共有手段として、「氷高ほっとメール」（教育情報メール）の登録を毎年保護者に呼びかけている。保護者の「氷高ほっとメール」に対する理解は深まり、登録率も増加傾向にある。昨年度は89.2%であった。</li> </ul> |   |     |       |      |    |       |       |    |       |       |    |       |       |    |       |       |
| 達成目標       | ① PTA活動への保護者の参加率の向上<br><br>・PTA総会への保護者参加率40%以上<br>・進路に関するPTA研修会への保護者の参加率80%以上(第3学年)   | ② 教育情報メール「氷高ほっとメール」の保護者登録率の向上<br><br>・90%以上   |     |       |      |    |       |       |    |       |       |    |       |       |    |       |       |
| 方 策        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教務部と連携し同日に授業公開を行ったり、保護者に関心が高いと思われる企画や情報を用意したりすることで、総会や研修会・学年懇談会に参加したいという気持ちを持ってもらえるように工夫する。</li> <li>・行事の開催案内の配布、メールでの情報配信を行うことで、PTA活動への参加を促す。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学前の合格者説明会やPTA総会等の機会をとらえ、「氷高ほっとメール」の利用価値が大きいことをしっかり伝え、保護者の登録を促す。</li> <li>・入学以降は、特に1学期を登録推進期間として引き続き保護者に登録を勧める。</li> <li>・全体への一斉メール以外に、試験成績の配布日の告知等、学年や学科に特化した必要な情報も配信することで、利用価値を高める。</li> </ul>  |     |       |      |    |       |       |    |       |       |    |       |       |    |       |       |
| 達成度        | ① ・34.2% ・60.7%   | ② 91.7%   |     |       |      |    |       |       |    |       |       |    |       |       |    |       |       |
| 具体的な取組状況   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加を促すために、ホームページ上で開催内容を知らせ、当日は学校行事等写真のスライドショーを実施した。</li> <li>・総会、授業参観、学年懇談会参加者は全校で202人、34.2%（昨年より4.3%減）。</li> <li>・3年生普通科の学年研修会は110人、69.6%。専門学科は54人、47.8%。</li> <li>・3学年全体では164人、60.7%。（昨年より10.7%減）</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学説明会と入学式当日、新入生の保護者に登録をお願いした。</li> <li>・1学期の保護者会で利用状況のアンケートを実施し、意識調査とともに必要性をアピールした。</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>登録率</th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全体</td> <td>89.2%</td> <td>91.7%</td> </tr> <tr> <td>1年</td> <td>92.1%</td> <td>92.1%</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>89.8%</td> <td>93.2%</td> </tr> <tr> <td>3年</td> <td>85.8%</td> <td>90.1%</td> </tr> </tbody> </table> | 登録率 | H30年度 | R1年度 | 全体 | 89.2% | 91.7% | 1年 | 92.1% | 92.1% | 2年 | 89.8% | 93.2% | 3年 | 85.8% | 90.1% |
| 登録率        | H30年度   | R1年度  |     |       |      |    |       |       |    |       |       |    |       |       |    |       |       |
| 全体         | 89.2%   | 91.7%   |     |       |      |    |       |       |    |       |       |    |       |       |    |       |       |
| 1年         | 92.1%   | 92.1%   |     |       |      |    |       |       |    |       |       |    |       |       |    |       |       |
| 2年         | 89.8%   | 93.2%   |     |       |      |    |       |       |    |       |       |    |       |       |    |       |       |
| 3年         | 85.8%   | 90.1%   |     |       |      |    |       |       |    |       |       |    |       |       |    |       |       |
| 評 価        | D   | A   |     |       |      |    |       |       |    |       |       |    |       |       |    |       |       |
|            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年専門学科の参加者が、昨年より33人減。進路決定に関わる研修であることの呼びかけが必要であった。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年を通して必要性を感じている保護者が90%以上いる。</li> <li>・年々増加傾向にあった登録率が、安定してきた。</li> </ul>  |     |       |      |    |       |       |    |       |       |    |       |       |    |       |       |
| 学校関係者の意見   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA研修会参加保護者の会への必要感や満足度は高い。1、2年生の12月の保護者会の面接時や学年便りに、広報を実施したが、継続的なPRに努めたい。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用状況のアンケートによると、ほっとメールには多くの保護者が満足しているが、翌月の行事日程の連絡が遅いのではないかと意見もあった。</li> </ul>  |     |       |      |    |       |       |    |       |       |    |       |       |    |       |       |
| 次年度へ向けての課題 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者との連絡を密にし、PTA活動の活性化を図り、授業公開、学年研修会、PTA総会との同日開催等、保護者の参加を促す日程、及び内容を検討する。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・登録者のうち、受信拒否による不着が10件程度ある。生徒を通じて許可設定をお願いしているが、なかなか改善されない現状を改善したい。</li> </ul>   |     |       |      |    |       |       |    |       |       |    |       |       |    |       |       |

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成しなかった D:達成しなかった)